

2月1日(水)に蒜山校地の社会教室にて「CP I / 蒜山」成果発表会が行われました。学年ごとの発表内容を紹介します。

CP I (1年生)

「観光・イベントによる地域の活性化」



私たちは蒜山の活性化のための取り組みについて考えてみました。今の蒜山は観光による集客で利益を得ているが、地元の方々にとってはどうなんだろうと思ひ、活性化のためには何よりも地元の方の協力も必要だということに気が付きました。まだ実際に動き出すところまではいっていませんが空き家を活用することはできないかなという考えを持ち始めています。今後このような考えを活かしていきたいと思ひました。

「ゆるキャラを利用した地域の活性化」

1年生は、成果発表会で「地域活性化のために何をすべきなのか」というテーマに沿って発表をしました。ゆるキャラ班と観光・イベント班の2班に分かれて話し合いを進めました。1年生のゆるきゃら班では、マスコットキャラクターを活用することで地域の発展に貢献することができないのではないかと話し合いました。成果発表会では、マスコットキャラクターの経済効果やメリットなどについて班の中で出た考えを発表しました。蒜山校地のマスコットキャラクターである「すずしろくん」の活用方法にも考えを発表させていただきました。



蒜山 II (2年生)

「ひるキャン△△△」



蒜山地域の魅力を伝えたいというきっかけから始まりました。蒜山地域にはキャンプ場やグランピング施設が多くあることに着目し、蒜山地域にあるキャンプ場やグランピング施設をサイトで紹介することができたら良いなということを目標にして活動しました。

実際にキャンプ場やグランピング施設に伺ってアンケート調査や写真撮影などを行いました。そして、アンケート結果をまとめて、サイトに掲載する情報を厳選して構成やレイアウトなどを、甲田さんと協力して完成させることができました。ひるキャン△△△では最終的に、『ManiColle (マニコレ)』という真庭市のイベントを紹介しているサイトに記事を掲載させていただくことになりました。まだ事業者の方に掲載して良いかの許可を雪の影響で取ることができていないため、公開はしていませんが、おおまかな目標は達成できたと思います。

「ウクライナ×蒜山_郷同料理」

「蒜山×ウクライナ_郷同料理班」は、蒜山の食材を生かして連日話題となっているウクライナの料理に挑戦したいと思ひました。ピロシキ、ワレニキ、ボルシチと呼ばれるウクライナの伝統料理に挑戦しました。その後、本来の目的である蒜山の食材を活用し、ウクライナ料理に生徒自身でアレンジを加えていきました。今後このプロジェクトで開発したメニューを、このひるこうタイムズを通して発信できたらと思ひます。この活動を通して、生徒は「失敗を恐れず何事にもチャレンジする精神を身につけることができた」「前向きに取り組もうという気持ちが持てた」と、自分自身に変容を感じることができました。11月には東京在住のウクライナ人とリモート交流も行いました。



ひるこう
タイムズ



第 231 号 R5. 2. 25

毎月 25 日発行

勝山高校蒜山校地 情報・広報室
katuyama-hiruzen@pref.okayama.jp

蒜校生がりポート!

ひるこうタイムズ記者
(取材・撮影・記事執筆)
蒜山ABC部(文化部)

1年生:明村萌華

2年生:牧田華奈・木村七海

※ ●は生徒、●は教員担当の記事

行事予定

2月

27日(月) 部活動オリエンテーション
27日(月)~3月2日(木)

1・2年生学年末考査

3月

1日(水) フラワーアレンジメント体験
2日(木) 3年生登校日
同窓会入会式
3年生学校賞表彰
卒業式予行

3日(金) 卒業式

6日(月)~7日(火) 家庭学習日

8日(水)~9日(木) 一般入学者選抜
生徒休業日

10日(金) 家庭学習日

13日(月) START 蒜校②

14日(火) 1・2年生進路ガイダンス

16日(木) 合格発表・追検査

20日(月) 終業式

24日(金) 入学予定者登校日

蒜山Ⅲ（3年生）

『project 蒜香 3年間の総括』

3年生は、地域活性化を目指して project 蒜香という活動に取り組んできました。蒜山の魅力と言えばジャージー牛を使った乳製品や、ひるぜん焼そば、蒜山大根などの食文化、またユネスコ無形文化遺産に登録された大宮踊りが有名です。地域の方々は「山焼き」が蒜山の伝統だと言いました。そこで3年生は、山焼きの香りは蒜山を感じさせる魅力だと気づき、香りを地域活性化の糸口とし、このプロジェクトがスタートしました。早速、お香班とアロマ班に分かれ活動を始めました。

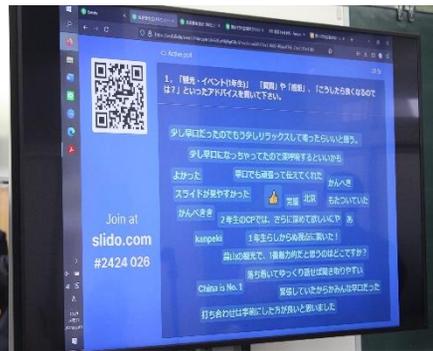
「お香班」

タブの木が原料のタブ粉やシナ粉をブレンドし、最終的にはタブ粉とヤマザキリングファームのリンゴの剪定枝をブレンドしたものが完成となりました。

「アロウオーター班」

植物に蒸気をあてて香り成分を移し、その蒸気を冷やして香りを集めました。水も塩釜冷水のものを使用するなど、蒜山の素材のみで作りました。最終的に、桜とヨモギとクロモジを使ったものと桜とラベンダーを使った2種類の香りが完成品となりました。アロウオーターは今年、蒜山で行われた海山マルシェにて販売をしました。想像以上の盛り上げで達成感を感じました。

3年間を通して、地域活性化に限らず何か挑戦するときは地域の方々と協力することで大きなことでも成し遂げられるということに気づきました。蒜香作りは生徒だけでは到底達成しえなかったことです。たくさんの方々の協力がありここまでやってこることができました。しかし、3年生は卒業してしまいます。このプロジェクトはここで終わってしまうのか。そこで今まで行った活動を次世代に「継承する」、これも大切なことだと気づきました。蒜校生は地域活性化を目指しこれからも活動し続けます。今後も皆様に助けを求めることがあるでしょう。その時はぜひ手を取り合い、共に歩いていただけると嬉しいです。3年生全員の思いです。



発表者の皆さんお疲れ様！
発表の後は、slidoというアプリ
を使って感想やアドバイスを
伝えたいよ！



EVENT

●服のチカラプロジェクト

感謝状

WORDS OF APPRECIATION

2022年度
“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

On behalf of the refugees of the world,
We would like to express our sincere gratitude
for your generous support to those who have
been forced to flee their own land. Your
support is a gift of hope for their future.

皆様からお寄せいただいた温かいご支援は
故郷を追われ困難に直面している人々が、
未来への希望を持って生きていく大きな力となります。
ここに世界の難民の人々に代わって
謹んで感謝の意を表します。

2023年1月

株式会社ファーストリテイリング
代表取締役会長兼社長 柳井正

UNHCR駐日事務所
駐日代表代理 ナツケン藤部

柳井正

Naoki Fujibu

Chairman, President and CEO, FAST RETAILING CO., LTD.
Takashi Yonekura

Office in Charge, UNHCR Representative in Japan
Naoki Fujibu



1年生は家庭科の時間に“届けよう、服のチカラ”プロジェクトという活動をしました。UNIQLO・GUの方に「服のチカラ」についてお話を聞きました。後日、感謝状や服の寄贈フォトレポートが届きました。今回、回収させてもらった服は難民の方々、国内避難民の方々の子どもたちに送られているそうです。

レポートではアルジェリアやチャド共和国、シリア・アラブ共和国の方々のストーリーや写真などでも状況を伝えてくださいました。現地の方は、

「仕事はあるが、食べ物の価格が上がっているため、服を買う余裕がなく、私達が本当にサポートを必要としているときに服を受け取ることができた。服を寄付してくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。」

「この新しい服のおかげで、時々着替えをする楽しみができた。」

「今まで寒かったのがジャケットをもらえて本当に嬉しいです！」

などと話してくれたそうです。

服には、「命を守る。個性を表現する。」などの沢山のチカラがあります。この活動は、国を超えて現地の子どもたちの生きるチカラになっています。世界の明るい未来のため、このような活動をヒントに自分たちのできることを続けていきましょう。

(明村)